



左から仁部浩一会長、江上、仁部泰社長

情報化社会に向けた文部科学省の「GIGAスクール構想」をご存じでしょうか？今年から全国小中学校で電子黒板、書画カメラ等ICT機器の他、生徒1人に1台、端末(タブレット)が用意されて教室には「充電保管庫」が設置されていきます。全国約48万教室で毎日20～40台の端末充電が行われるので、過重な電力負荷や授業中ブレーカーが落ちる、端末充電が切れる、過放電や過充電によるリチウムイオン電池劣化に伴う想定外の交換費用等が心配されています。今回ご紹介するのは、そうした心配を全て解決する“スイッチバック(SB)充電システム”を開発した株式会社ワイ・イー・シーの仁部浩一会長と後継社長の仁部泰様です。

ー 今期30周年おめでとうございます。

(会長) 当社は30年前にNECの設備機器専門メーカーの技術部門から独立しました。HDDを大量に高速コピーする技術開発に国内で初めて成功し、PCメーカー・官公庁・金融機関向けに、壊れたHDDのデータ復旧やコピー、大切なデータを完全消去するサービス、機材提供を行ってきました。

(社長) 最近では情報漏洩から企業を守るための証拠保全や、初動調査をはじめ警察からの依頼も増えています。

ー どうしてスイッチバック(SB)充電システムを開発しようと思ったのですか？

(会長) お客様の様々なご要望に応える中で、いずれは1人1台端末を持ち歩く時代の到来を予見していました。社会のデジタル化が進めば、皆が電池を持ち歩くようになるので、複数の端末充電を効率よく行える仕組みがいずれ必要になるのではないかと。雄川監査役(NEC時代に世界初の家庭用FAXを開発された方)も同じ事を考えており、7年前からモノ作りが大好きな2人で“こっそり”開発してきました。



台湾工場で組み立てています



生徒さんが直ぐに使えるよう端末環境を整えています

(社長) スwitchバック(SB)機能付の充電保管庫では、教室のブレーカー許容範囲内で全端末の充電状況を確認し、充電が完了した端末から充電されていない端末へ自動切替(Switchバック)します。充電のバラツキがなくなり、時間も短縮されるので電池寿命も長期化します。生徒さんの学習環境や省エネを考えてSBを選んで下さった学校教育委員会の優しさにご感謝したいですね。



公立小中学校に設置される充電保管庫。生徒44人分の端末を充電します。

ー 弊社はどのようにお役に立つことが出来るでしょうか？

(会長) 江上さんとの最初の出会いはGIGAスクール充電保管庫の資金調達相談でした。銀行に提出する事業計画や資金繰表を作成頂き助かりました。無事資金調達出来た後も毎月の資金状況や在庫状況を確認・アドバイス頂き、助かってます。

(社長) 後継社長としてこれまで培ってきた良い風土や習慣は継続しながら、今の時代に合ったものをバランス良く取り入れた経営が出来ればと考えております。作成頂いた資料は会社のヒト・モノ・カネを社外に説明するだけでなく、営業・生産・管理など社内での相互理解にも役立つと思います。売上拡大した今、タイムリーな状況把握は企業の安定成長に欠かせません。江上さんの銀行や企業財務での経験を、最大限活用させてください。